

# シンガポール・ビジネス連盟の物流・e コマース関連企業との交流会 概要報告

ASEAN日本経済協議会日本委員会

1. 日時 2018年4月19日(木) 16時30分～18時30分
2. 場所 TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター22階
3. 出席者 (日本側) ASEAN日本経済協議会日本委員会委員企業  
日本ロジスティクスシステム協会会員企業ほか 27名  
(シンガポール側) シンガポール・ビジネス連盟(SBF) 視察団一行 27名

## 4. 概要

ASEAN日本経済協議会日本委員会では、シンガポールを代表する経済団体であるシンガポール・ビジネス連盟(SBF)が派遣する物流・e コマース関連の視察団の一行である23社27名を迎え、日本企業とのビジネス促進を目的に意見交換と交流会を開催した。

当委員会では日本とASEANの企業間交流を通じて双方のビジネスを促進し、議論を通じて炙り出された共通の課題を政策提言により解決に繋げることを目的に日ASEANの11経済団体で日ASEANイノベーションネットワーク(AJIN)を構成して活動している。

今回の交流会はその活動の一環であり、日本とシンガポールの物流・e コマースに業種を定め、両国の企業関係者が交流することで自社のビジネスにつなげるとともに、両国企業が抱える課題や両国企業の共同の可能性などを探り、日ASEANのビジネス環境を整えるという趣旨のもと、開催した。

当日は二つのテーマ1) 物流・倉庫の自動化 2) 消費者向け小ロット・ラストワンマイル物流につき意見交換。出てきた主なポイントは以下の通り。

- 両国において物流・倉庫の自動化のニーズは高い。ニーズが高い理由はe コマースの発展に伴う多品種小ロットスピード配送の増加に対し、高齢化による恒常的な人手不足。
- 自動化・消費者向け小ロット・ラストワンマイル物流の形態はビジネスモデルによって異なる。シンガポールの例で見ると大手ECサイトは、商品を箱に入れていく順序決めに機械学習のアルゴリズムを使っているが、ピッキング作業自体はまだ人間が行っている。このモデルでもシンガポールでは倉庫から8km圏内は1～2時間での配送を保証。一方で大手オンラインスーパーは顧客の嗜好を捉えた豊富な食料品の品揃いが強み。ただし、倉庫が複数に分かれており配達に1～2日かかる。消費者は状況に応じて利用サイトを使い分けている。
- 両国とも高齢化の進行という共通の課題を抱える。シンガポールは高齢化社会への対応で先を行く日本の物流モデルから学べるものは学び、共にクリエイティブな発想で強みを生かしたい。日本企業にはシンガポールをASEAN市場のテストマーケットに使ってほしい。

ASEAN日本経済協議会日本委員会では、8月下旬から9月上旬に予定されている日ASEAN経済大臣会合の際に、この場で出た意見も要望として届ける予定。



意見交換会



交流会